

【十一月の言葉（令和七年）】

縁によって生まれ、縁によって存在し、

縁によって去っていく。

仏教では、私たちのこの「いのち」をどのように理解しているのでしょうか。私たちは、「私が生きている」と思い込み、それを当然のこととしています。しかし、お釈迦様は、「いのち」への深い思索によって、『縁起の道理（さまざまな因縁によって「生かされている私」である）』という「いのち」に目覚められました。

私たちは、自分の思い通りに生きたいと思っています。しかし、現実には思い通りにいきません。どうにもならない事実を目前にした時、意のままにならない世界の中で、ご縁によって「生かされている私」に気づきます。

お釈迦様は、私たち一人一人の「いのち」は、「縁起するいのち」つまり、さまざまなご縁によって存在している「いのち」であって、何らかの偉大な力を持った存在によって左右されるものではないことを明らかにされました。私たちの幸・不幸を偉大な力を持った存在に願うのではなく、「縁起するいのち」に目覚め、幸・不幸を自ら引き受けて生きていくことを説かれたのです。